

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（税務専門課程（税務・徴収コース）第22期）

北海道 仁木 孝幸

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

【はじめに】

昨今、地方税の徴収担当者向けの研修については、自治大学校以外の研修機関等でも多数開催されており、集合型研修の他、オンラインでの研修もあるなど大変充実しています。そのような中で他の研修と違い自治大学校での研修最大の特徴は宿泊型の研修です。1ヶ月程の長期間の中で研修生同士の交流を深めることを目的のひとつとしており大変充実した内容となっています。講義の中では近年、多くの方に身近になりつつある投資信託等の金融資産についての基礎知識やその差し押さえ手続き等についての説明もありました。

「自治大学校の研修」と聞くと全国の自治体から精鋭が集まる長期間の研修でとてもハードな内容と想像する方もいらっしゃると思いますが、私が参加した令和6年度の研修には、経験豊富なベテラン職員の他にも20代の若手職員も多数参加していました。

そのため、意欲があれば年齢・実務の経験年数は関係ありません。研修中のグループ討議では若手職員もベテラン職員も関係なく研修生同士が意見を交わしておりました。今回は受講した内容を紹介させていただきます。

【研修内容】

今回、北は北海道、南は鹿児島県まで全国から53名の研修生が参加しました。

本研修は大きく分けると、著名な大学教授・弁護士等の法律の専門家による「民法」、「租税法」、「破産法」といった講義、租税の

徴収事務の経験豊富な専門家の体験談を交えた講義。各班に分かれた研修生同士のグループ討議や意見交換、ロールプレイングといった内容です。講義の中で解らない点があれば講義中や休憩時間の講師への質問や、研修生同士で納得のいくまで議論を重ねて理解を深めました。

また、自治大学校の図書室には豊富な専門書や参考書が所蔵されており、講義の予習・復習や課題レポート作成の際には非常に役立ちました。

なお、講師の先生から教えて頂いた専門知識の他にも研修生同士の意見交換・交流から各自自治体のベストプラクティス(成功事例)を学ぶことも可能です。これは長期間の宿泊型研修ならではの特色です。

【寄宿舎の生活・研修生同士の交流】

研修中は自治大学校内にある寄宿舎で生活しますが、寄宿舎は1人ずつの個室があり個室にはユニットバスや小型の冷蔵庫が完備されています。各研修生にはインターネットに接続可能なノート型PCが貸与されます。講義は基本的にペーパーレスのためノート型PCを教室に持ち込みます。

寄宿舎の各階には交流用の「談話室」や「洗濯機」等が設置されています。談話室では、研修生各自が用意した全国各地の「銘菓」や「銘酒」、各研修生の職場から送られてくる飲食物に舌鼓を打ちながら毎日遅くまで仕事や趣味の話を語り合いました。

お互いのことをよく知ることは研修中の積極的な意見交換や卒業後の交流にも繋がりました。

自治大学校には研修施設や寄宿舎の他に食堂、図書室、トレーニングルーム、テニス

コート、グラウンドが設置されています。これらの施設で、一般研修の研修生と知り合う機会もありました。毎日のように利用した図書室では、毎朝、一般・専門研修問わず多くの研修生が講義の予習・復習をしており、良い刺激となりました。

自治大学校周辺にはコンビニエンスストアがある他、JR 立川駅北口から1キロ強の好立地で近くには多摩モノレールの高松駅があるため、入寮の際や都心までの移動に不便はありませんでした。1キロ弱先には大規模な複合型の商業施設があるため日常生活に必要な生活用品の購入のため頻繁に利用しました。

また、土日、祝日は講義がなく休講日なので、遠方から参加の研修生と一緒に都心で食事や舞台鑑賞・買い物を楽しんだり、東京近郊の観光地を巡ったりと充実した日々を過ごしました。平日、休日問わず研修生と過ごす毎日楽しく、まるで学生時代にタイムスリップした感覚でした。

【おわりに】

自治大学校の研修では専門的な知識や先進的な取り組みをする自治体職員の講師から成功事例を学ぶことが出来ますが、今回の研修で得た最大の財産は研修生同士の絆です。早いもので卒業から3ヶ月程経ちますが、今でも研修生間で立ち上げたSNS上での連絡手段では「仕事上の困りごと」や「他愛もない話」で盛り上がっております。

卒業後、研修生の中には遠方の自治体の同期生を訪ねたり、小旅行という目的での再会を楽しむ方もいたり研修生同士の絆は一生の宝物です。

そのため、全国に散らばる研修生同期の存在は困難業務に直面した時に大きな助けとなっています。

最後になりますが、当研修に関わられた自治大学校の教職員をはじめとする皆様には改めて感謝申し上げます。各自治体では限られた予算、人員の中で1カ月にわたり

職員を派遣することは大変かと思いますが、当研修に関心をお持ちの皆様は是非とも前向きにご検討いただくと幸いです。本研修で得られる経験や研修生間の交流は大きな財産ですので、今後、一人でも多くの方が参加され各自治体の滞納整理の促進につながることを願っております。